

## 1 指定管理施設の概要

施設名	舞鶴市農業公園		
指定管理者	株式会社農業法人ふるる		
設置目的	農業と自然に触れ、親しみ、学ぶ場及び市民との交流の場を提供し、農業の振興及び地域の活性化に資するため。		
選定方法	公募・非公募	指定期間	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日
所管課	産業振興部産業創造室農林水産振興課		

## 2 利用状況等の推移

	令和3年度	年度	年度	
滞在農園利用組数(組)	11			
日帰り農園利用区画数(区画)	16			
コテージ利用者数(人)	1,281			
利用料金(円)	12,781,636			
事業分利用人数(人)	26,168			
事業分収入(円)	30,158,460			
指定管理料(円)	2,000,000			

※事業＝レストラン、加工工房、マーケット、体験(各施設の延べ人数)

## 3 成果(数値)目標の達成状況

成果(数値)目標の種類	市設定目標	年間目標(A)	実績(B)	達成率(B/A)
交流サロン(農業レストラン)の利用人数	38,000	26,300	10,853	41%
管理センター(ふるるマーケット)の利用人数	26,000	20,000	11,126	56%
コテージの利用人数	2,000	1,558	1,281	82%

## 4 収支状況

(円)

収入		支出	
利用料金	12,781,636	人件費	35,019,634
指定管理料	2,000,000	維持管理費	4,589,674
事業収入	28,778,460	事業費	30,885,652
その他	19,537,793	その他	305,702
合計	63,097,889	合計	70,800,662
差額			△7,702,773

## 5 所管課による評価

項目	評価	コメント
(1) 事業計画の達成度		
成果(数値)目標を達成しているか	△	新型コロナウイルスの影響で営業日数が制限されるなかではあったが、感染防止対策を行い、目標達成に向け創意工夫が図られていた。今後も努力されたい。
施設の将来的な構想(ビジョン)に沿った運営を行ったか	○	感染防止対策を施し、利用者の安全を第一に考え施設運営が行えた。
施設の果たすべき使命(ミッション)を果たしたか	○	自然に触れあえる屋外でのイベント等をコロナ禍でも開催し、地域の活性化に努めた。
市指定事業、自主事業は計画どおり行われたか	○	感染防止対策を施し実施できた。
利用者数の増加、利用率の上昇などが図られたか	○	コロナ禍でも安全対策を施したイベントを開催し、集客に努めていた。
(2) 利用者の満足度		
利用者の満足が得られたか	○	度重なる休業要請等、利用者には不便を与えたが、再開時には感染防止対策を十分に行うとともに、テラス席の活用等、利用者から好評を得た。
利用者の意見・要望の把握は適切に行われたか	○	通年でアンケート調査を実施し、積極的にニーズ把握に努めている。
利用者の要望・苦情への対応は十分に行われたか	○	適切に行われていた。

(3) 管理運営の効率性		
経費の節減が図られたか	○	休業期間中の人件費が大きな負担となっていたが、シフトの見直し、雇用調整助成金を活用し軽減できた。
委託費、物品の購入費等の経費が最小となるような取組が行われたか	○	適切に行われていた。
収入増加のための取組が行われたか	○	通販事業の強化やeBIKE ツアーの実施、クライנגルデンー時利用の強化等収益向上策が実施されている。
(4) 適正な管理運営		
適切な人員配置が行われたか	○	適切に行われていた。
職員の能力向上のための取組が行われたか	○	適切に行われていた。
施設の平等な利用が行われたか	○	適切に行われていた。
個人情報の管理が適切に行われたか	○	適切に行われていた。
情報の公開が適切に行われたか	○	ホームページ、ソーシャルネットワーキングサービスを駆使し、こまめな情報発信ができていた。
収支状況や会計処理が適切か	○	会計処理は適切。コロナ終息の際は、積極的なイベント企画や体験事業の実施や、黒字化を目指し加工品開発・通年事業等のレストラン以外での収入増を図りさらなる経営改善を図りたい。
施設・設備の法定点検及び保守が適切に行われたか	○	適切に行われていた。
備品等の管理が適切に行われたか	○	適切に行われていた。
危機管理、安全対策などは十分か	○	感染防止対策を実施した。
法令等を遵守し、適正な管理が行われたか	○	適切に行われていた。
(5) その他コメント		
サービス向上	新型コロナウイルスの影響が長引き、休業要請も長期化するなか、イベントも思うように開催できず、引き続き苦しい1年となった。 このような中、密を避ける新たなアクティビティとして、eBIKEの導入やクライングルデンー時利用強化等の積極的な取組はwithコロナ下で新たな顧客を確保できるものと期待している。	
経費削減	新型コロナウイルスの影響で、休業期間中や客数減少の中、人件費が大きな負担であったが、シフトの見直しや雇用調整助成金により軽減できた。食品ロスを抑える取組を強化することで、原価の低減につながった。	
施設の維持・管理	非常事態宣言中の施設が閉鎖されている間、職員による施設のメンテナンスを実施。	

※ (1)から(4)までにおける評価区分

- ◎(優)： 協定書、仕様書等の基準を遵守し、その水準より優れた内容である。
- (良)： 協定書、仕様書等の基準を遵守し、その水準に沿った内容である。
- △(可)： 協定書、仕様書等の基準を概ね遵守しているが、内容の一部に課題がある。
- ×(不可)： 協定書、仕様書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な内容である。

## 6 選定委員会による評価

評価点	2.8点	※左記の点数は、各委員が次の5段階評価を行い、その点数を平均したものです。 5：良い、4：やや良い、3：普通、2：やや悪い、1：悪い
総評	利用者アンケートなどマーケティングが必要と思われる。 赤字が増大する中で、使命感は伝わるが、これまで以上に大きな改革が必要である。 多額の累積赤字が不安である。 令和3年度の赤字は仕方ないと思われるが、令和4年度はコロナ関連の補助金等が見込めない分もっと厳しいと思われる。	

《参考》 過年度の評価点

年度	年度	年度	年度	平均